

## 2. 流域及び河川の概要

大刀洗川の上流域は筑前町依井地先の平野部にその源を<sup>よりい</sup>発し、大刀洗町、久留米市の平野部を南に流下し、筑後川に合流する一級河川である。

大刀洗川流域のほとんどが平坦な地形からなり、筑後平野の穀倉地帯の一部をなし、圃場整備された農地を利用した稲作がさかんに行われ、河川水は農業用水として利用されている。

流域全体の地形勾配が緩く、下流部の低平地では内水が発生しやすいことが特徴となっている。

大刀洗川下流端には、大刀洗排水機場があり、出水時の筑後川本川水位が高い場合には水門等を閉め、必要に応じてポンプにより筑後川本川へ排水している。

以下に大刀洗川の諸元を示す。大刀洗川の流域面積は 25.2km<sup>2</sup>、河川延長は 13.3km となっており、筑後川右岸 32.0k 付近に流入する。

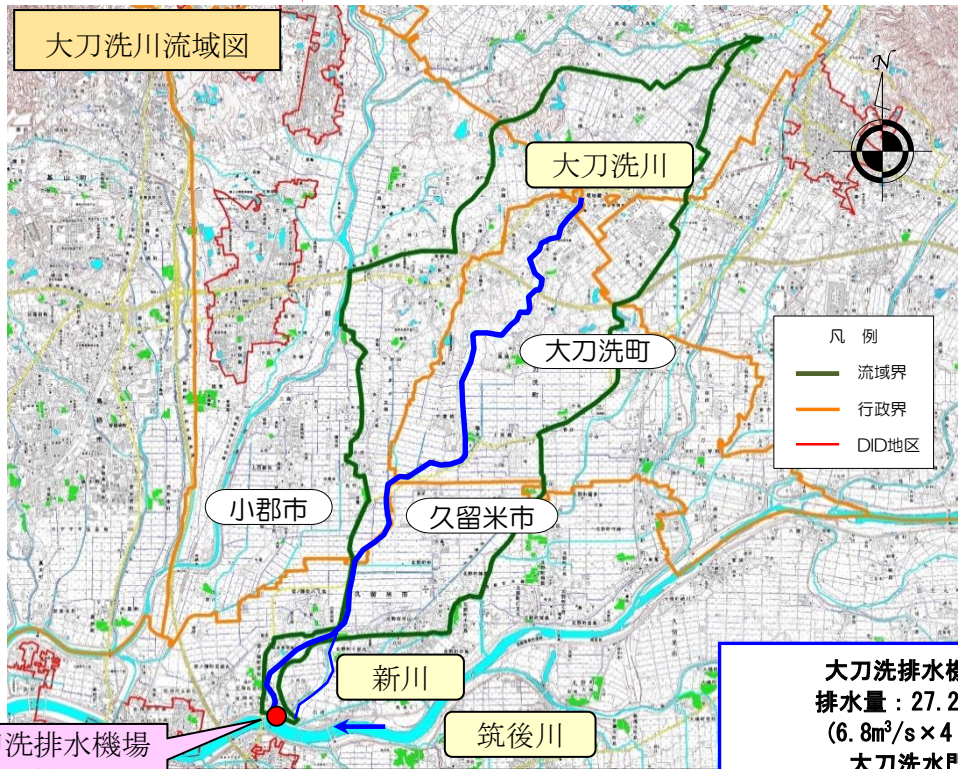
表 2-1 大刀洗川の河川諸元

河川	流域面積	河川延長	合流先
大刀洗川	25.2km <sup>2</sup>	13.3km	筑後川右岸 32.0k 付近

筑後川流域図



大刀洗川流域図



大刀洗排水機場  
(国管理)

大刀洗排水機場  
排水量：27.2m<sup>3</sup>/s  
(6.8m<sup>3</sup>/s×4台)  
大刀洗水門  
諸元：B16.25m×H6.94m×2門



図 2-1 対象区域の位置図(大刀洗川)



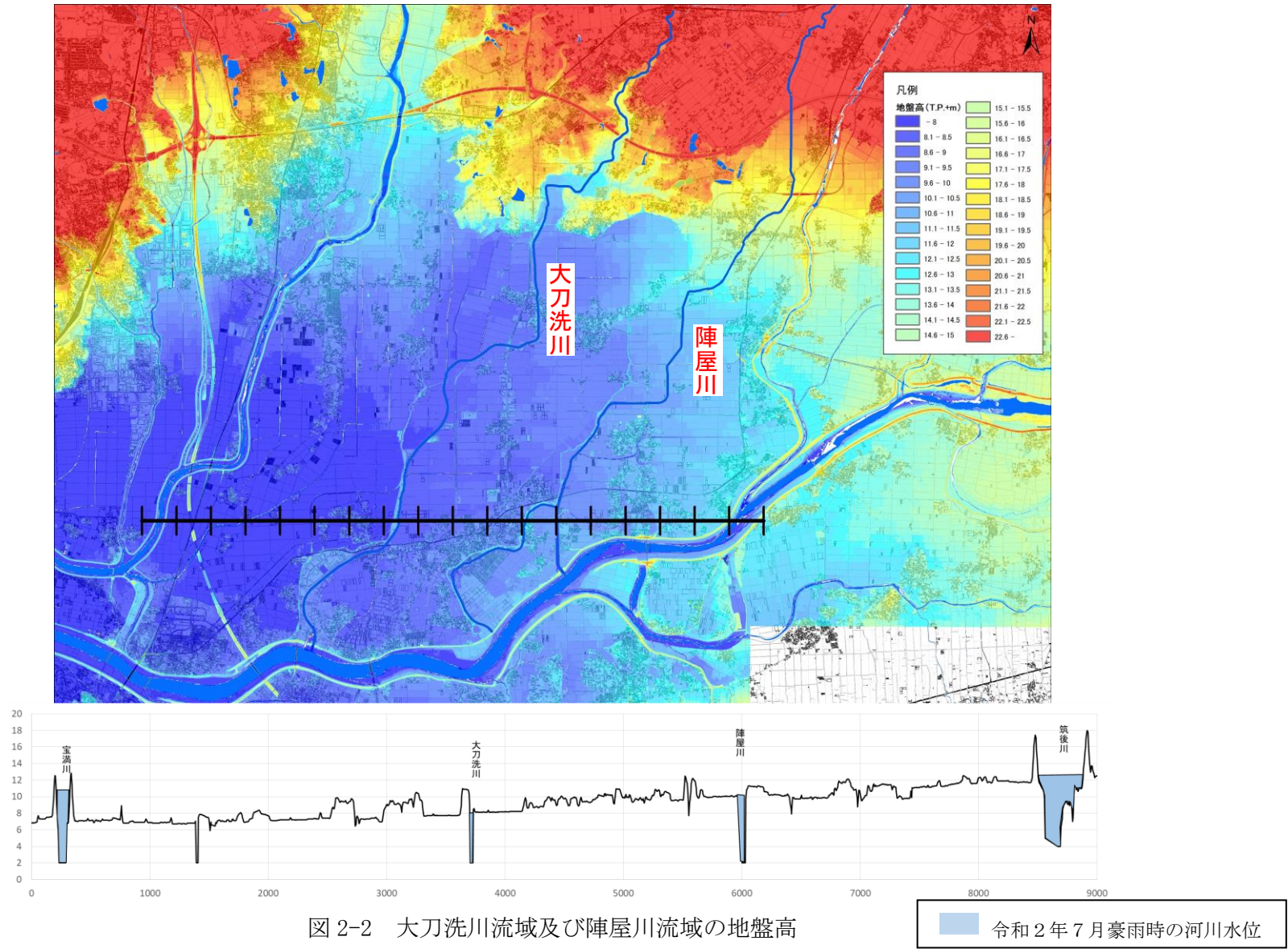
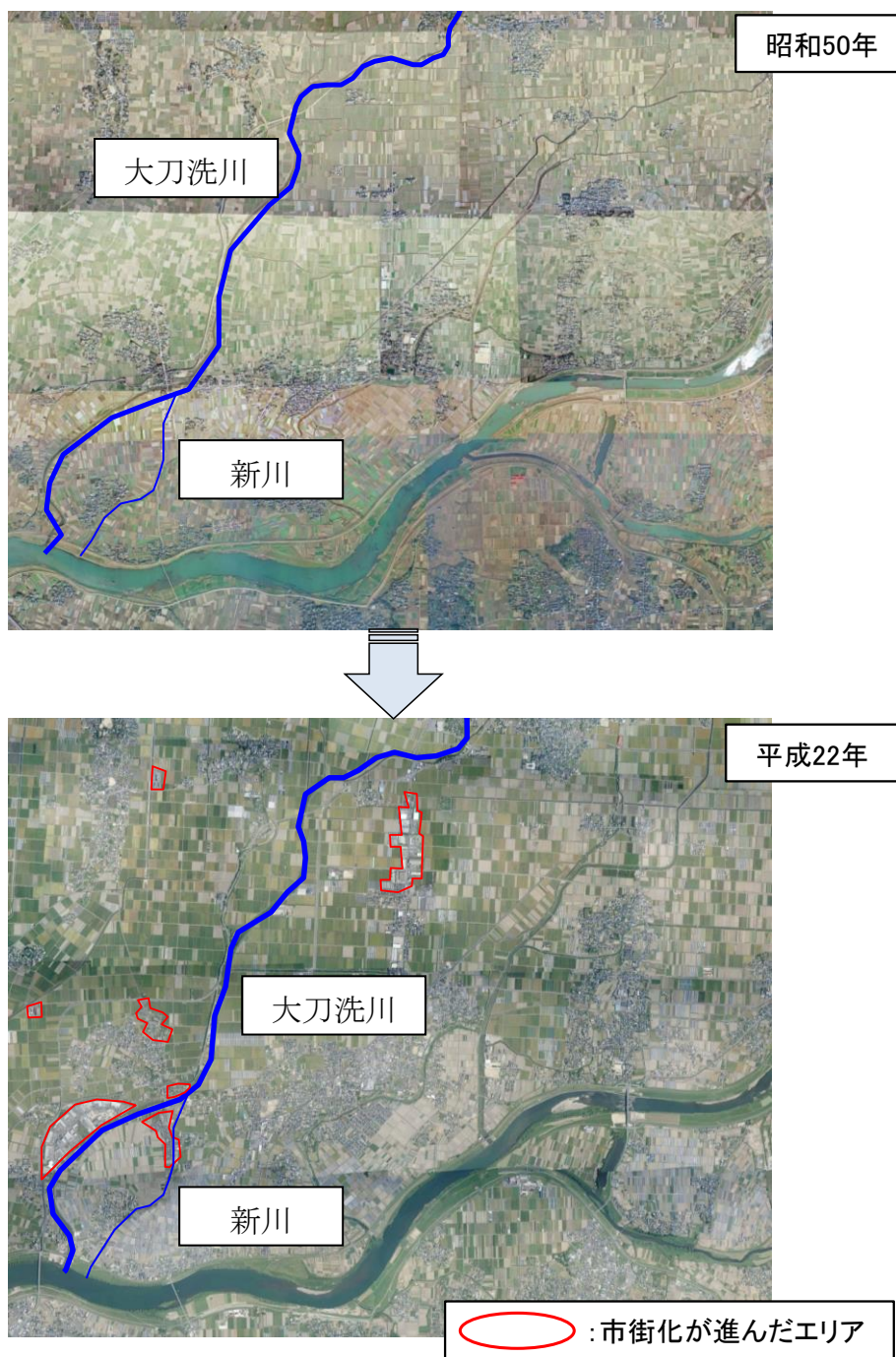


図 2-2 大刀洗川流域及び陣屋川流域の地盤高

大刀洗川流域の土地利用の変化を見ると、昭和50年と比較して平成22年は、大刀洗川下流域における右岸側等の一部区域で市街化が進展している。



出典：国土地理院

写真 2-1 大刀洗川流域の土地利用状況の変遷